

## (イ) 一人の子どもについての継続的記録

子どもたち一人一人の姿を追ってみると、幼稚園生活を通してだんだんと成長していく姿を実感することができる。私たち保育者は、子どもたち一人一人に応じた援助をしながら、この子はどのように成長してきたのか、これからの課題はどんなことだろうかと思いを巡らせながら保育に当たっている。

ここでは、自分らしさを発揮していく過程と保育者の援助の在り方、その時の保育者の思いについてまとめた。

### ① だんだんと友だちとかかわるようになってきたA児（年少児：女）

入園時

保護者と一緒に保育室まで来て、保護者と離れることができたが、保護者が帰った後に「ママー！」と泣き出す姿が見られた。

○ A児が安心して過ごすことができるように保育者との信頼関係づくりに努めよう。(手をつないで過ごしたり、抱っこしたりなどのスキンシップを図る。)

○ A児が興味・関心をもっていることを知り、自分を出すことができるように援助しよう。

#### 【保護者との連携】

○ 子どもが安心できる時間まで離れた場所から子どもの様子を見てもらうように協力をもらう。

○ 保護者が不安に思ったり、焦ったりすることがないように、子どもの様子を連絡帳や降園時を利用して話題にする。



4月20日

#### 「フラフープを使った列車ごっこ」

A児が友だちとかかわっている様子

○ 保育者とA児、B児、C児で園庭を散歩していると、B児がフラフープを楽しんでいる年長児を見付ける。

年長児「教えてあげようか、こうするんだよ（フラフープを腰で回す）」

B「（フラフープを指して）やってみたい」

○ 年長児を真似てやってみるが、腰で回転させることはできず、フラフープを列車に見立てて操作し始める。列車ごっこのきっかけになると感じて保育者から言葉掛けをした。

あっちに出発しませんか。



いいね、行ってみよう。

○ B児—C児—A児—保の順番で列車のように連なって移動し、先頭のB児を追って列車ごっこを楽しむ。子どもたちで遊びが盛り上がっていく様子を見ながら保育者は少しずつ距離をおいて見守るようにした。

B「次は動物園ですよ～」

A「Bちゃん、待って～」



A 児が友だちと過ごす時間が増えてきたぞ！

保育者との信頼関係を土台として自分の世界が広がってきたみたい！

- A 児が興味・関心をもっていることは何かなという思いをもってかかわろう。
- A 児が友だちと触れ合える機会をつくり、人とかかわる楽しさを味わえるようにしよう。
- A 児がワクワクするような言葉掛けができるように、子どもたちとの遊びを楽しもう。

7 月 3 日

### 「たけのこ体操」

A 児が友だちとかかわっている様子

- A 児，B 児，C 児，D 児がテラスや保育室で追いかっこをしている。  
A「B ちゃん，まで，まで～！」
- 四人に E 児が加わり，たけのこ体操をすることになる。  
B「たけのこ体操をしようよ」  
A，C，D，E「やろう，やろう」
- A 児がカセットデッキを手にし，たけのこ体操のテープを準備するが，なかなか音が鳴らないので保育者に話し掛けてきた。  
A「先生，音が鳴らないよ」  
保「(テープをひっくり返して) こうすればいいんだよ」
- 保育者に使い方を聞いた A 児はうれしそうに友だちのところへ行き，音楽に合わせてたけのこ体操をする。
- 繰り返し五人でたけのこ体操を楽しむ様子を保育者は見守った。



いいね！またやろう

またやろうよ！

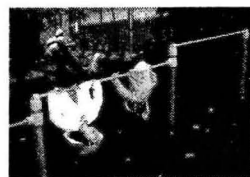


- A 児の成長の様子を見取り，A 児が積極的に友だちとかかわっている姿を見守り，自分を出すことができた様子を実感した。
- A 児が入園から少しずつ変わっていった様子を保護者へも伝えよう。

「わたしが教えてあげる」

A児が友だちとかかわっている様子

- 鉄棒で前日に前回りができるようになったA児と、前日に引き続き前回りに挑戦するB児、C児が鉄棒遊びを始める。  
A「今日も（前回りが）できたよ」  
B「Aちゃん、すごいなあ」  
A「わたしが、Bくんに教えてあげる。見てて」（AがBに前回りを見せる）
- A児とB児が保育者のところに走ってやってくる。  
B「先生、（前回りが）できたよー！見に来てー！」  
A「先生、早く、早く！」
- B児が保育者に前回りを見せる。  
B「先生、いくよ、見ててね」（ぐるっと回る）  
保「Bくんやったね、すぐにできるようになったね～」  
B「Aちゃんが教えてくれたんだよ」  
保「Aちゃんは、Bくんの鉄棒の先生だね」  
A（微笑む）
- A児とB児は繰り返し前回りを楽しみながら、C児にも自分たちの前回りを見せ、C児を応援する。



- A児が友だちに教えてあげようとする姿を見守り、自分たちで挑戦している姿を大切にした。
- A児のおかげでできるようになったと感じているB児の言葉を受け止め、A児が自信をもつことができるような言葉掛けをした。
- これからもA児が自信をもつことができるような機会を大切にしていこう。



前回りができたことで、A児は自信をもつことができたようだ。

入園時からA児の姿を追って記録していったことで、子どもたちがどのようにして自分の居場所を見付け、友だちとかかわっていくのかを感じ取ることができた。

子どもたちが幼稚園生活を楽しみ、自分らしさを発揮して過ごすために、以下のことを大切にしたい。

① 幼稚園が安心して過ごせる場所であること

そのためには・・・

- 保育者と子どもの信頼関係づくりに努める。
- 保育者と保護者との信頼関係を築く。
- 一緒に過ごす友だちを知る。

② 友だちと触れ合える機会を多くもつこと

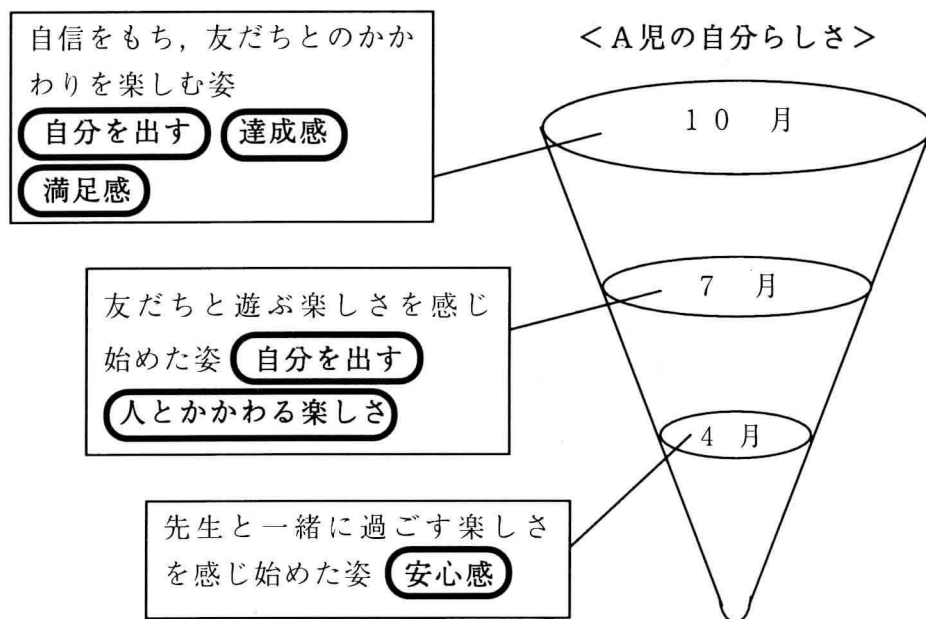
そのために保育者として・・・

- 子どもたちの興味・関心を大切にする。
- 友だちのいいところ、工夫しているところなどを伝えていく。

③ 自信をもつことのできる機会を大切にすること

そのために保育者として・・・

- できた喜びに共感する。
- 子どもたちが少しがんばったらできそうなことを提供する。  
(心地よい負荷を与える。)
- 子どもたちが自信をもつことができたことを保護者にも伝える。

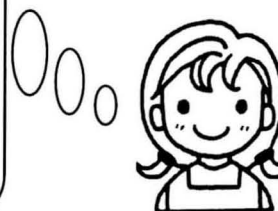


② 自分の好きなことを見付けられるようになってきたB児（年中児：男）

入園時

保育者や友だちと自分からかかわることはほとんどなく、自分の思いを伝えることがあまりできなかった。友だちのしていることをじっと見ていることが多かったので、保育者は「こんなものもあるよ」と空き箱やペットボトルなどを提示したが、そこから離れ、また見ているという日々が続いた。

- 新しい環境の中で、今は、友だちのしていることなどいろいろなことをじっくりと見ている時期なのかな？しばらく見守るようにしよう。
- 話をする中で、B児が好きなことや興味・関心をもっていることを知ろう。



4月27日

「Bもする」

B児が自らやりたいことを見付けていく様子

- 同じクラスの子どもたちが、空き箱やロールペーパーの芯をガムテープで付けて遊んでいる。保育者も、ガムテープを切ったり、箱を押さえたりしてその場にいた。
- 近くで、その様子を見ていたB児。  
B「Bもする」  
保「Bくんは何をしたいの？」  
B「これとこれをつなげる」
- 小さな箱を二つ選んできたので、保育者は、ガムテープを切ってあげて、それを付ける手伝いをする。
- それだけをつくると、うれしそうに自分のロッカーに持って行く。帰るときには、それを大切そうに持ち帰る。



B児が自分の意思をはっきりと伝えられたぞ！  
焦らずに様子を見てきてよかった。

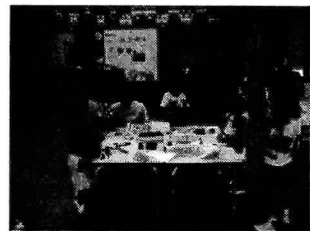
- B児の少ない言葉をしっかりと受け止められるようにしよう。
- B児の好きなこと、興味・関心のあることを一緒に遊ぶ中で捉えていこう。
- B児が遊ぶ中で、友だちと触れ合える機会をつくろう。

5月28日

「牛乳パックを使った製作」

B児が自らやりたいことを見付けていく様子

- 友だちがつくっていた、牛乳パックをつなげたものを見ていたB児。自分で牛乳パックを三つ持ってくる。  
B「Bもこれをつくりたい。ガムテープを切ってください」  
保「はいどうぞ」
- 自分で貼ろうとするが、ぐちゃぐちゃになる。  
保「先生、押さえておこうか。どこに貼りたいの？」
- 保育者が押さえておくと、自分で貼りたいところに貼り、形をつくっていく。うまく貼れなくてぐらぐらすると、また上からテープを貼って自分で工夫しようとする姿が見られた。
- つくったものを持ってプレイルームへ行き、友だちが遊んでいるのを見ながら、少し離れたところで遊びに参加している。



- 少しずつ自分のイメージを保育者に伝えられるようになってきたぞ。
- 友だちの遊びにも興味を示し、自分も参加してみようとする変化が見られてきたぞ。

6月7日

「しないで！」

B児が自らやりたいことを見付けていく様子

- A「先生、かくれんぼしよう」  
保「いいね。やろう、やろう」
- A児がかくれんぼをしようと提案し、近くにいる子どもたちを誘う。男女六人の友だちとかくれんぼをする。B児も仲間に入っている。  
C「誰がおにするの？」  
保「やりたいお友だちがおにになろうか。やりたい人？」  
A C E「はい、おにやりたい」
- おにが数を数えている間に、B児などほかの子どもは隠れる。何回かおにを替わったりしながらかくれんぼを楽しむ。
- A児がB児をふざけてたたく。  
B「しないで！先生、Aくんがたたいた」  
保「Aくん、どうしてたたいたの？」  
A「一緒に遊びたかったの」  
保「一緒に遊びたかったら、お友だちをたたいたら、楽しく遊べないよ」  
A「ごめんね」  
B「いいよ」
- またみんなでかくれんぼをして遊ぶ。

- B児が友だちと遊ぶ楽しさを十分に味わうことができるように保育者も遊びの仲間に入ろう。
- B児が自分の気持ちや、やってほしくないことをしっかりと伝えられた姿を認めてあげよう。



園生活の中で、友だちや保育者とかかわりながら自分の好きな遊びを見付けられるようになってきたぞ。

11月下旬

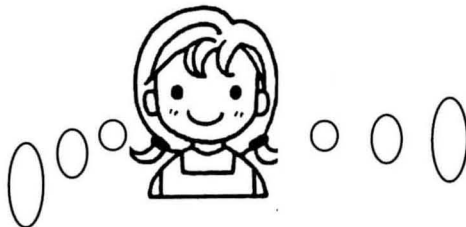
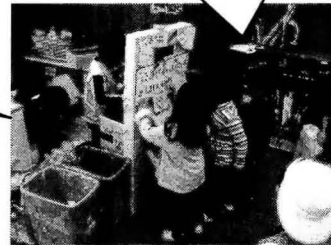
「ぼんたのじどうはんばいき」

B児が自らやりたいことを見付けていく様子

- 11月中旬に行われたおたのしみ会で、友だちがした劇「ぼんたのじどうはんばいき」(葉っぱを入れると欲しいものが出てくるという話)を見た後、自分もぼんたになってごっこ遊びを楽しむ姿が見られた。
- 年少児が遊びに来る。  
A「ネックレスをください」
- 年少児の言葉に気付かずにいるB児に保育者が言葉を掛ける。  
保「お客さんが来たみたいだよ」  
A「ネックレスをください」  
保「そこにある葉っぱを入れてごらん」
- A児が葉っぱを入れると、B児はネックレスを探す。  
B「どうぞ」  
A「ありがとう」
- 次々にやって来る年少児のお客さんを相手に遊びを続ける。  
B「わー、こんなにお客さんが来た」

ネックレスをください。

どうぞ。



クラスの友だちだけでなく、異年齢児とも交流できるようになってきたぞ。交流の中でお兄ちゃんになったな。

- 年少組の子どもたちとかかわりながら、遊びを楽しんでいる姿を認めてあげよう。
- 自分の好きな遊びを見付けて、じっくりと取り組んでいる姿を認め、保育者もお客さんになって一緒に遊びを楽しもう。

入園時からB児の姿を追って記録していったことで、B児が新しい環境の中で、自分の好きな遊びを見付け、友だちとのかかわりを増やしていく過程を追っていくことができた。

子どもたちが幼稚園生活を楽しみ、自分らしさを発揮して過ごすために、以下のことを大切にしたい。

① 幼稚園が楽しく過ごせる場所であること

そのために保育者として・・・

- 子どもとの信頼関係づくりに努める。
- 一緒に過ごす友だちを知り、遊ぶ楽しさを感じられるようにする。
- 子どもの好きやことや、興味・関心を大切にする。
- いろいろな遊びを知り、興味をもったことをやってみようとする気持ちを育てる。

② 友だちと一緒に遊ぶ機会を多くもつこと

そのために保育者として・・・

- 保育者も仲間に入りながら、友だちと一緒に遊ぶ楽しさを味わえるようにする。
- 友だちのよさや自分のよさについて知ることができるようにする。
- お互いの気持ちや意見がぶつかってしまう場面を大切にして、そこから子どもたちに多くのことを考えることができるようにする。

〈B児の自分らしさ〉

